

福島県安達郡大玉村教育委員会

◆テーマ エネルギー消費実態に基づくエネルギー管理手引きの策定

◆事業概要・目的

本村小中学校では、これまで福島県の実施する環境教育事業「福島議定書」に参加し、児童生徒の環境への意識高揚と校内の省エネルギー活動に取り組んできた。また、小学校では「緑の少年団」活動にも取り組んできた。しかし、環境の悪化は間違いなく進行しており、今後は各学校にも益々エネルギー消費の削減が求められるものと考えられる。

そこで、有識者の助言を受けながら、既存学校施設の環境対策を一層推進するとともに、児童生徒に対する環境教育の充実を図ることを目的とする。

◆検討体制：「環境実施委員会」

- | | |
|------------|----------|
| ・ 有識者 | 1名（大学教授） |
| ・ 教育委員会関係者 | 2名 |
| ・ 学校関係者 | 3名 |
| ・ その他 | 1名 |

◆検討方法

①先進事例調査

環境教育に関する先進地に、環境教育カリキュラム充実のための視察調査を行う。

（実施の目的）

環境教育及び環境対策実施のため、先進的な取り組みをされている宇都宮大学附属学校園、須磨学園及び神戸市教育委員会・神戸市立御影北小学校を訪問し、環境教育推進の実情や環境対策の実施状況、エネルギー管理標準の策定状況等について調査を行う。

②体験型環境講演会

環境教育の専門家による講演会を開催し、環境意識の高揚を図る。

（実施の目的）

環境教育推進の契機として、また今後実施する際の在り方を探るモデルとして、大学・行政・企業と連携し、体験型の環境講演会を実施する。

③エネルギー消費実態把握及びエネルギー管理標準の策定

エネルギー使用量の記録と省エネナビによって、中学校におけるエネルギー使用状況を把握し、エネルギー管理手引きの策定に取り組む。

（実施の目的）

村内幼稚園、小・中学校のモデルとして、大玉中学校について電気設備の設置状況を調査するとともに、省エネナビを設置し、電力消費の状況を調査する。この調査などをもとに、村内の幼稚園、小・中学校において省エネルギーを推進するための指針として、エネルギー管理標準のひな形を策定し、幼児・児童・生徒の快適な学習環境を確保しつつ、省エネルギーが推進できるように取り組む。

◆具体的な対応方策

●体験型環境講演会の実施

大玉村立大玉中学校において、環境教育推進の契機として、大学・行政・企業と連携し、体験型の環境講演会を実施した。生徒がバイオディーゼル燃料、発電の仕組みなどを体験しながら、環境に関する意識を高めることができ、地域への啓発を図った。

●エネルギー管理標準の策定

大玉中学校におけるエネルギー消費の実態などをもとに、村内の各幼稚園、小・中学校において省エネルギーを推進するための指針として、エネルギー管理標準のひな形を策定した。

●大玉村環境学習資料の作成

村内の幼児・児童・生徒が環境について学び、考えるための資料となる、大玉村環境学習資料「みんなで考えよう！環境のこと」を作成した。

◆今後の展開

本事業の成果を活かして実質的な省エネルギー活動に取り組むのはこれからであり、エネルギー管理標準の趣旨・性格として、継続的に実施し改善を加えていくものであり、環境教育もまた継続的に行われ、日常化することが大切である。さらに、幼稚園、小・中学校における幼児・児童・生徒の取り組みをとおして、保護者・地域住民への啓発も図られるものと期待する。